

令和7年度学校評価



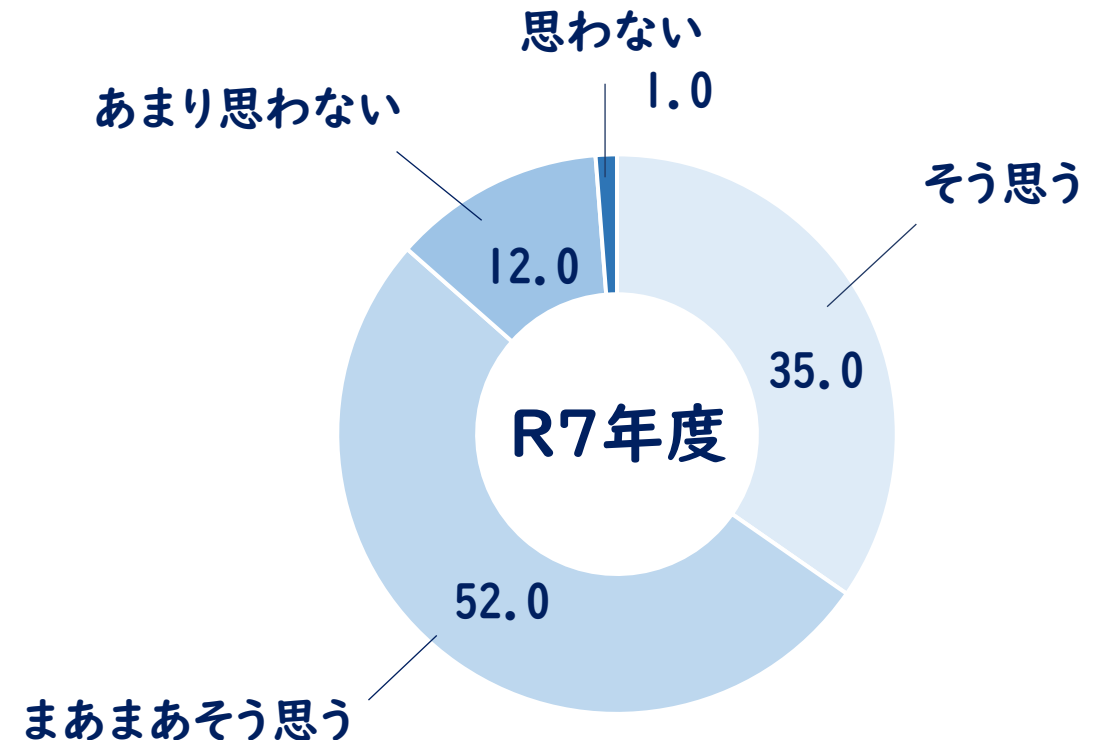
Q1.【生きて働く知】

お子様は、自分のよさを生かしながら、考えを深め、主体的な学習習慣を身に付けている。

学年の教職員が子どもたちの変容を丁寧に見取り、国語科・社会科を中心とした授業改善や、安心して考えを伝えられる学級づくりを進めてきました。メンター研究会や重点研究会を通して、問題解決力・コミュニケーション力の育成に向けた授業改善が全校的に広がり、ICT活用による分かりやすい授業や考えの共有も定着してきています。今後は、子ども一人ひとりが課題を見つけ、学び方を選択・判断できる場面をさらに充実させるとともに、教職員間の協働を一層深め、授業力の向上を継続的に図っていくことを目指します。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	30	57	9	4
R6	29.9	56.2	12.0	1.9
R7	35.0	52.0	12.0	1.0
前年比	+5.1	-4.2	0	-0.9

(数値→%)



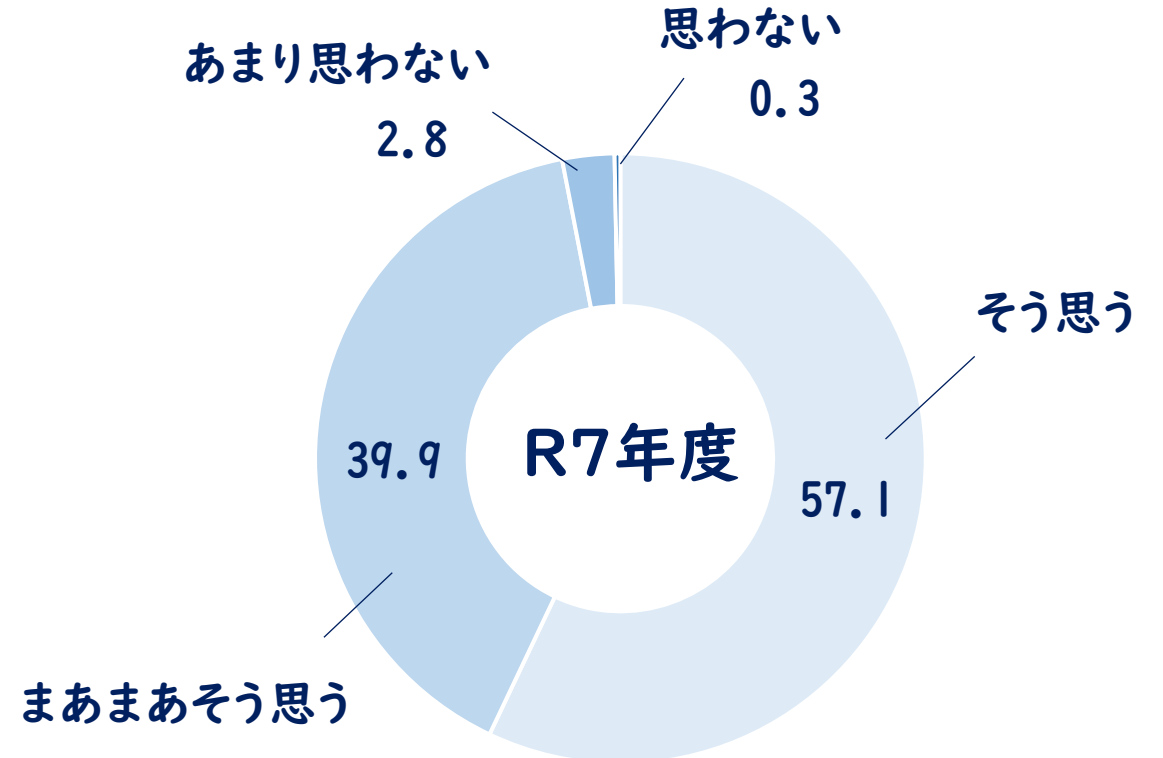
Q2.【豊かな心】

お子様は、自分や友達を大切にし、規範意識をもって生活している。

あいさつを意識した学年・学級目標づくりや日常の指導により、自分からあいさつをする児童が増えたこと、道徳科の授業を職員で共有し、学んだことを生活に生かそうとする姿が広がってきました。異学年・ペア学年交流でも、役割を意識しながら関わりを深める姿が見られ、学年間のつながりが確実に育っています。評価結果でも、多くの児童が肯定的に捉えており、取組の浸透がうかがえます。今後は、学習面での交流をさらに充実させ、相手に伝わる話し方や書き方の指導を強化することで、コミュニケーション力の一層の向上に取り組んでいきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	48	48	4	0
R6	56.2	40.7	2.8	0.3
R7	57.1	39.9	2.8	0.3
前年比	+1.1	-0.8	0	0

(数値→%)



Q3.【健やかな体】

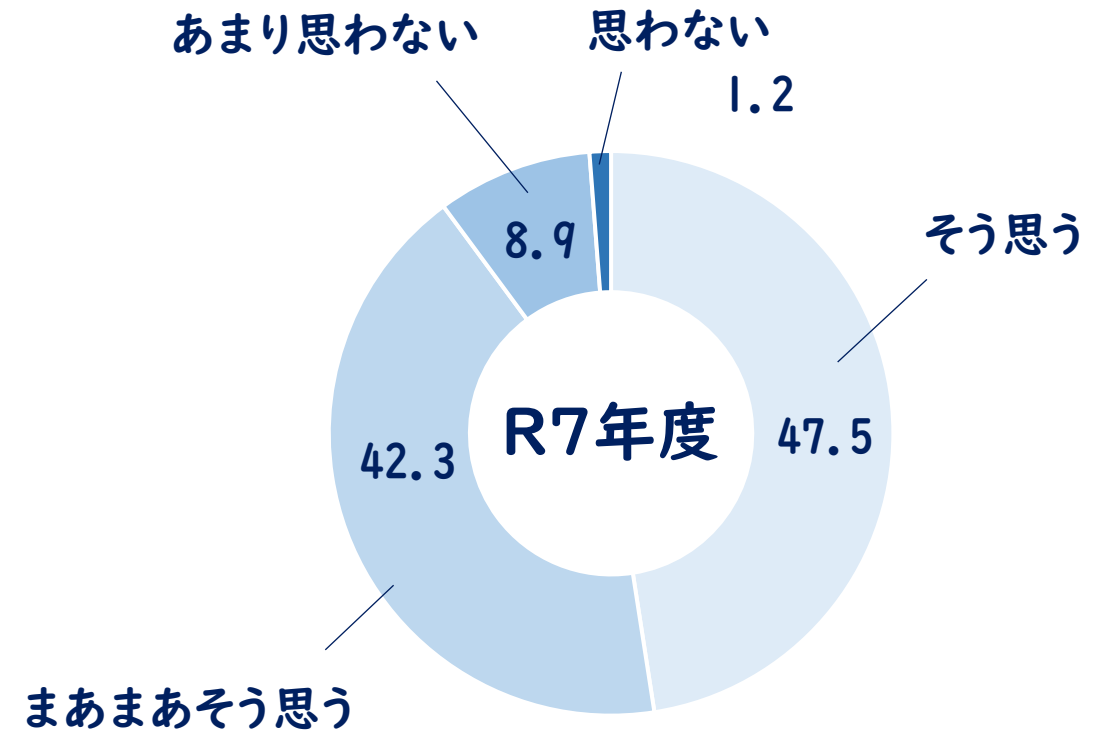
年間を通して体力の向上を図っている。また、食育の推進に取り組み、食物アレルギーの対応ができている。

平沼カップを中心とした運動活動では、高学年が下学年を支えながら取り組む姿が見られ、学年間のつながりが深まるとともに、長縄の目標設定を通して継続的に努力する姿や、体力向上が促進されたことは成果と考えられます。

学校保健目標に向けた学級ごとの取組も定着し、保健委員会の活動によって安全意識が高まっています。さらに、栄養教諭との連携による食育学習では、学んだことを生活に生かそうとする姿が増え、ランチルーム給食を通して実践的なマナー習得も進んでいます。今後は、これらの取組を相互に関連づけながら、児童が主体的に健康づくりに取り組む力をさらに育成し、日常の行動につなげていけるようにしていきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	39.2	46.1	12.7	2
R6	42.0	48.8	8.6	0.6
R7	47.5	42.3	8.9	1.2
前年比	+5.5	-6.5	+0.3	+0.6

(数値→%)



Q4.【特別支援教育】

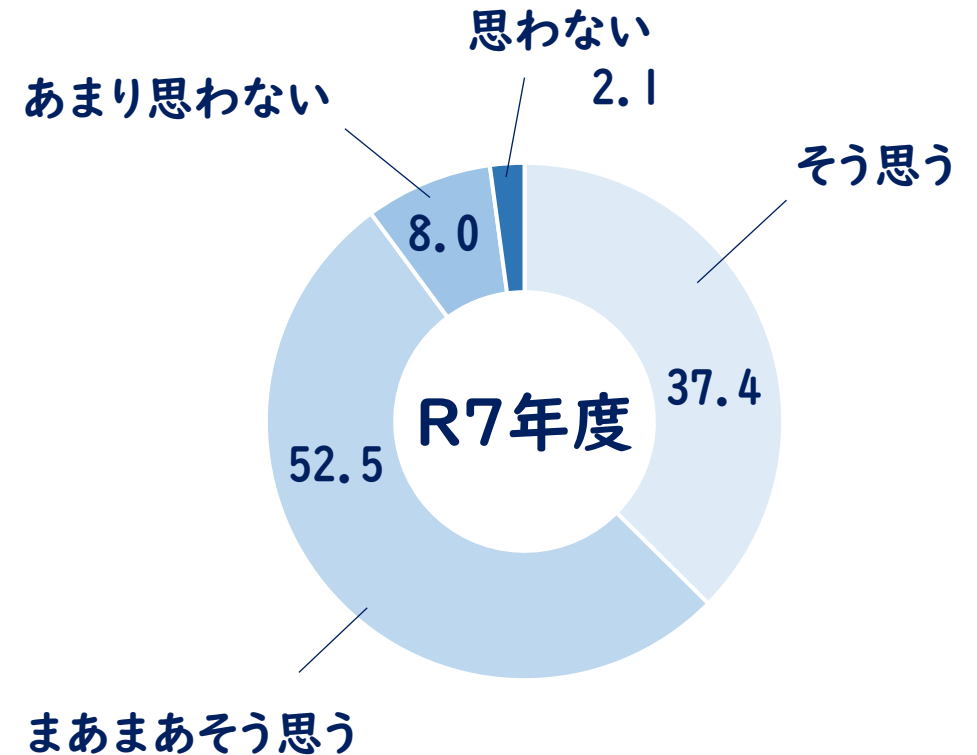
子ども一人ひとりの困り感を受け止め、

状況に応じた支援がされている。

学習支援・登校支援・日本語指導など、多様な支援を必要とする児童について、職員間で情報共有と支援方針の検討を進め、児童理解を深めながら指導の質の向上を図ってきました。通級設置校としての強みを生かし、指導方法の工夫や、「StudyRoom」を活用した個別最適な学習環境の確保にも取り組み、児童一人ひとりのニーズに応じた支援が充実してきました。さらに、個別の教育支援計画・指導計画を保護者と共有し、実態に応じた目標設定を行うことで、家庭と学校が連携した支援体制をとりました。校内通級モデルの実践も進み、環境整備や支援方法の改善が図られてきました。今後は、より効果的な支援内容や方法を検討し、継続的に支援体制を強化していきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	35.3	52	7	6
R6	35.5	56.5	5.9	2.2
R7	37.4	52.5	8.0	2.1
前年比	+1.9	-4.0	+2.1	-0.1

(数値→%)



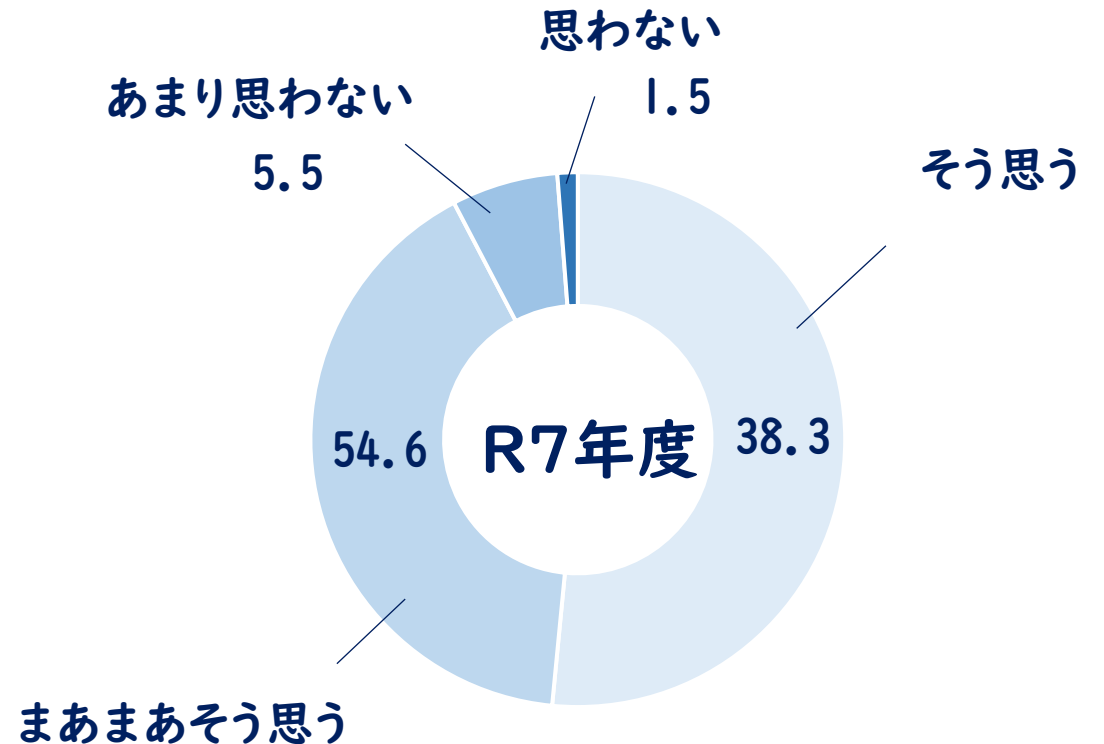
Q5.【児童指導】

児童支援専任を中心に、学校組織として、子どもに必要な支援や保護者相談が行われている。

日々の児童の様子を学年職員・専科・養護教諭・児童支援専任など多様な立場の教職員で共有し、複数の視点から児童理解を深めてきました。担任以外の職員も関わる体制を、全校で整えたことで、児童への理解が広がり、支援の基盤を広げてきました。学習場面や休み時間の様子を共有し、必要に応じて学年集会などで指導を行うことで、学校全体で一貫した支援に努めてきました。また、児童理解研修を通して、児童のできていることや努力している点に着目した前向きな声かけが広がり、意欲向上につなげてきました。今後は、こうした多面的な情報共有と肯定的な関わりをさらに深化させ、児童一人ひとりの成長を支える体制を組織的に進めていきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	38.2	50	8.8	3
R6	36.1	56.2	4.9	2.8
R7	38.3	54.6	5.5	1.5
前年比	+2.2	-1.6	+0.6	-1.3

(数値→%)



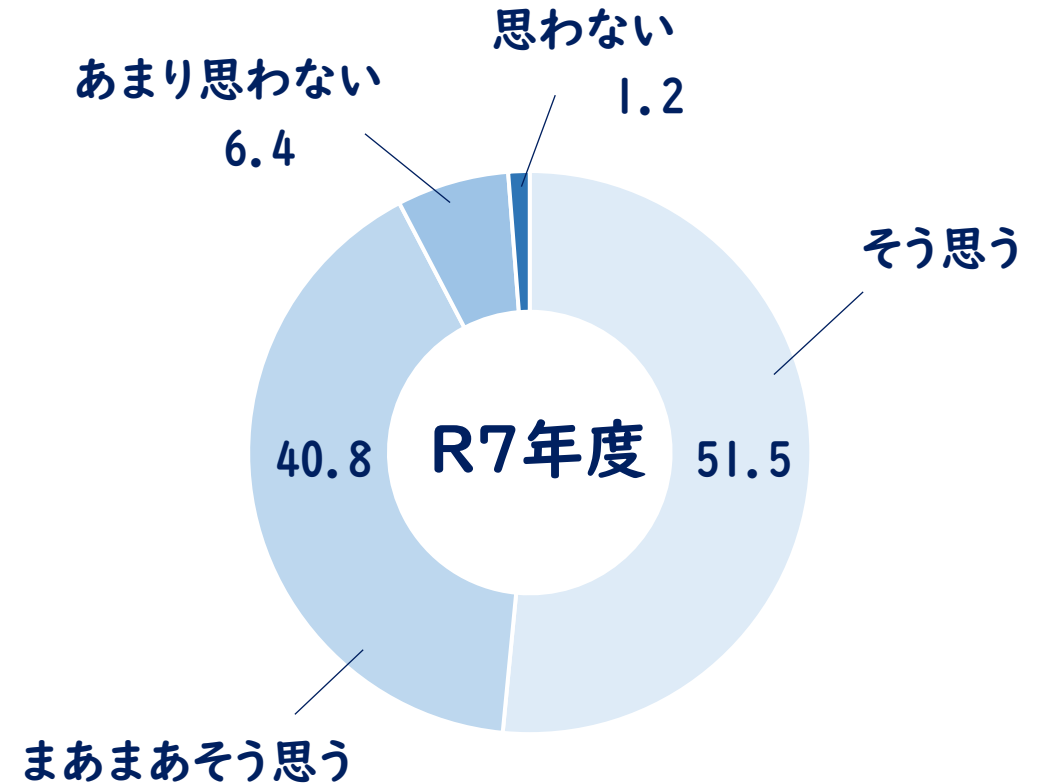
Q6.【社会参画】

生活科・総合的な学習の時間等で地域や社会とかかわり、地域の行事や祭礼等に参加し、地域のよさを感じている。

生活科・総合的な学習の時間では、これまでの経験を生かしながら自ら目標を立て、友だちとの対話を通して協働的に課題解決に取り組む姿を目指してきました。今後は、地域の人・もの・ことを題材にした探究的な学習をさらに深め、子どもたちが自分にできることを考え、社会に主体的に関わろうとする態度の育成に努めていきます。また、学校の取組を「すぐーる」のタイムラインで即時発信することで、保護者や地域との情報共有がより円滑になりました。さらに、納涼祭や水天宮例大祭など地域行事で子どもたちが活躍する場を設けたことにより、地域とのつながりが強まり、子どもたちの成長を多くの人に見守ってもらえる環境が整いつつあります。今後も地域と連携した学びを充実させていくことが求められる。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	52	42.2	5	1
R6	55.2	38.3	5.9	0.6
R7	51.5	40.8	6.4	1.2
前年比	-3.7	+2.5	-0.5	+0.6

(数値→%)



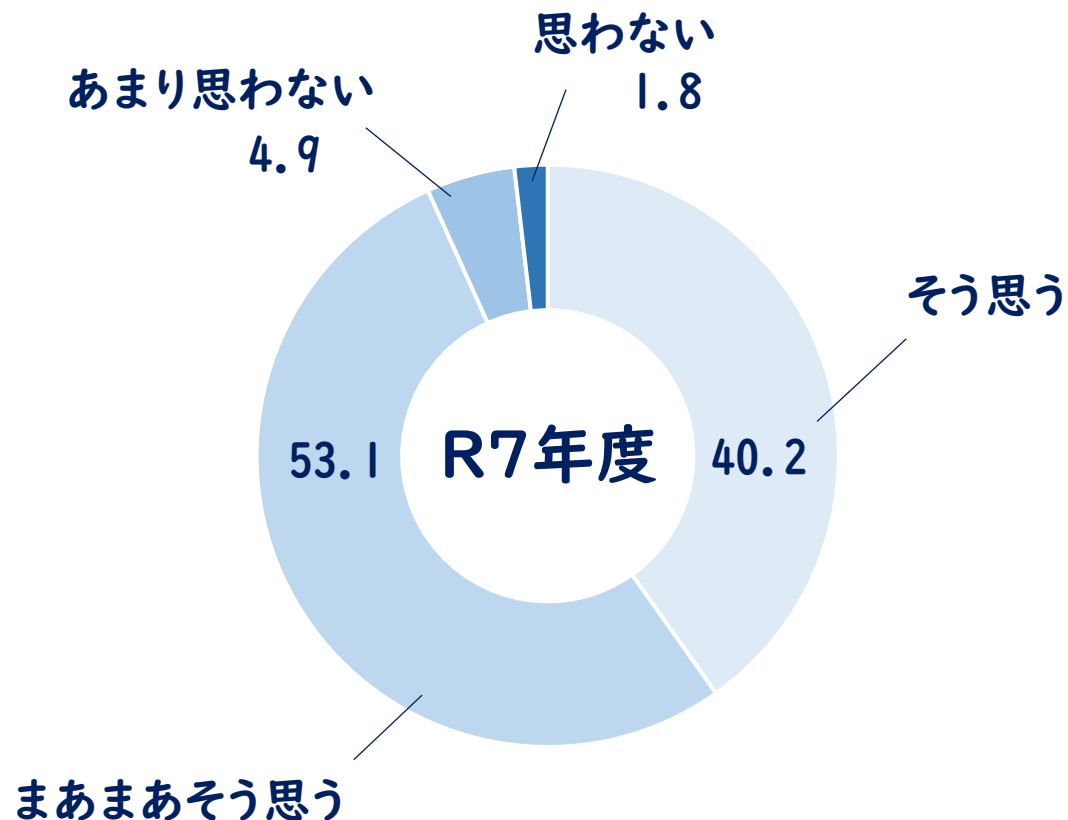
Q7.【地域連携】

学校は、教育のねらいの情報発信を行っている。また、「教育ネットワーク」を活用した運営がされている。

平沼共育ネットワークや地域の方々との連携により、平沼カップ、本よみ隊、遠足・校外学習の引率補助、花壇整備など、多様な場面で支援を受けながら、円滑に教育活動を進めてきました。岡野公園や平沼高校での活動においても、安全面での見守りが強化され、子どもたちが安心して学びに向かえる環境づくりができました。さらに、スクールゾーン協議会や地域防災拠点との連携、見まもり隊の継続的な活動を通して、地域全体で子どもたちの安全を支える体制がより充実してきました。今後は、こうした地域との協働をさらに深め、子どもたちが地域に支えられ、地域に貢献する意識を育む取組へと発展させることを目指していきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	43	51	4	2
R6	35.5	54.3	8.3	1.9
R7	40.2	53.1	4.9	1.8
前年比	+4.7	-1.2	-3.4	-0.1

(数値→%)



Q8.【いじめへの対応】

子どもがお互いを認め合う温かい環境ができており、諸課題の早期発見のための措置が取られ、迅速で丁寧な対応ができています。

「いじめに関する生活アンケート」や、「YPアンケート」を定期的実施し、児童の変化を丁寧に見取って教育相談につなげることで、未然防止と早期対応に努めてきました。学年ブロックや支援担当で情報を集約し、組織的に対応する体制が整ってきたことも、学校全体の支援力向上につながってきています。また、職員研修を通して「いじめ」への理解を深め、寄り添った対応や見守りの在り方についても考えてきました。さらに、「平沼未来会議」で子どもたちの声を直接聞き取り、基本方針の見直しに反映しようとした取組は、児童主体の学校づくりに向けた重要な一歩と捉えています。今後も子どもの声を継続的に聞き、学校全体で安心・安全な環境づくりを目指していきます。

	そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	思わない
R5	27.5	55.9	12.7	3.9
R6	32.1	56.5	9.0	2
R7	33.4	56.1	8.3	2.1
前年比	+1.3	-0.4	-0.7	+0.1

(数値→%)

